

令和5年度 英語指導法改善研究計画

宜野湾市立大謝名小学校

校長 玉村 かおり

1 研究主題名

英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

～言語活動の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

近年、グローバル化社会が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められている。学校で行われる外国語活動においても、従来の「慣れ親しむ」から、ある程度の「習得・活用の力」を育成する必要がある、カリキュラムの再編成と指導の準備を行わなければならない。

本校では、これまでも歌やゲーム、簡単な会話練習、ICTや図書などを取り入れ、幼稚園を含む全学年の児童が楽しく活動できる工夫に努めてきた。その結果、児童の多くが「英語の授業が楽しい」と答えており、意欲的に授業に取り組む様子が見られた。しかし、今次学習指導要領の改訂により、これまでの「説明・練習→コミュニケーション活動」という流れではなく、「コミュニケーション活動の中で、自力で既習事項を思い出して使いながら、自然に習得していく」ための授業づくりへと変えていく必要がある。「楽しい」だけでなく、目的や場面、状況に応じて、伝えたい内容に即した伝えるための英語表現の習得を図る工夫が課題となっているのである。

そこで、今年度も、低学年からの既習事項を系統的・総合的にスモールステップで積んでいき、言語活動の工夫を通して、相手に配慮しながら工夫して伝え合おうとする児童の育成を図りたいと考え、上記の主題を設定した。

ゲームや歌、単語練習で終わるのではなく、歌詞の一部を自分に関することに置き換えて表現したり、相手の反応を見て、ジェスチャーなどを使い工夫しながら Smalltalk を行ったりする活動を通して、自分の思いを伝える力を育てていきたい。また、伝え合う活動を通して、相手を理解し、互いに認め合うコミュニケーションの資質・能力を高め、主体的・対話的な深い学びを目指していきたい。

3 学年・領域

低学年（触れる・慣れる）	中学年（慣れる・親しむ）	高学年（親しむ・使う）
○英語の聞き取りに重点を置いた授業展開をする。	○英語の聞き取りと簡単な会話に重点を置いた授業展開をする。	○英語の聞き取りと実用的な会話に重点を置いた授業展開をする。

4 研究主任と組織



5 年間研究計画

学期	活 動 計 画
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画と具体的取り組みについての確認 ・活動内容についての共通確認 ・掲示物等環境整備 ・英語指導法工夫改善研修会への参加 ・夏季研修内容の検討 ・夏季研修 ・1学期の反省
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の活動計画の確認（1学期の反省をふまえて） ・英会話テストの実施 ・児童英検（5・6学年） ・2学期の反省
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の活動計画の確認（2学期の反省をふまえて） ・実践報告書まとめ ・本年度の反省と次年度に向けた確認・改善

6 校長所見

本市の目標である「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を目指し、小学校段階から英語及び異文化への興味関心・理解を深め、英語教育の入門期として「慣れ・親しむ」ことを基調に英語によるコミュニケーション能力の素地の育成を図ることが必要である。

そこで本校においては、これまでの研究の成果を継続し、英語に親しみ世界で活躍できる大謝名っ子の育成を目指して取り組んでいく。そのために低学年からの既習事項を系統的・総合的にスモールステップで積んでいき、言語活動の工夫を通して英語活動を実践していく。